

## 平成30年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年6月8日

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所 東  
 コード番号 3662 URL <http://www.a-tm.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 社長室長 (氏名) 光岡 昭典 TEL 052-747-5573  
 四半期報告書提出予定日 平成30年6月8日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 平成30年7月期第3四半期の連結業績（平成29年8月1日～平成30年4月30日）

（1）連結経営成績（累計） （％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年7月期第3四半期	28,338	12.5	3,809	37.5	3,852	37.1	2,650	44.2
29年7月期第3四半期	25,190	55.4	2,770	89.2	2,809	106.9	1,838	133.2

（注）包括利益 30年7月期第3四半期 2,652百万円（44.4%） 29年7月期第3四半期 1,836百万円（133.0%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年7月期第3四半期	136.82	136.27
29年7月期第3四半期	97.27	96.81

### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年7月期第3四半期	15,853	10,997	68.8
29年7月期	13,140	7,456	56.0

（参考）自己資本 30年7月期第3四半期 10,911百万円 29年7月期 7,360百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年7月期	—	5.00	—	22.00	27.00
30年7月期	—	0.00	—		
30年7月期（予想）				32.50	32.50

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成30年7月期の連結業績予想（平成29年8月1日～平成30年7月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	15.6	4,700	15.3	4,700	14.1	3,100	20.2	161.59

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）Increments株式会社、除外 1社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年7月期3Q	19,737,000株	29年7月期	19,469,800株
② 期末自己株式数	30年7月期3Q	253,762株	29年7月期	548,662株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年7月期3Q	19,374,459株	29年7月期3Q	18,901,178株

(注) 1株当たり四半期純資産額の算定に用いられた四半期末の普通株式の数および一株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎となる期中平均株式数については、「株式付与ESOP信託」及び「役員報酬BIP信託」制度において、日本マスタートラスト銀行株式会社（株式付与ESOP信託口及び役員報酬BIP信託口）が保有する株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当社グループは「みんなで幸せになれる会社にする事」、「今から100年続く会社にする事」を経営理念としております。この経営理念のもとすべての役員及び従業員が一丸となり、さまざまな技術領域・ビジネス領域において、インターネットやスマートデバイス（スマートフォン及びタブレット端末）を通じて個人の利用者の皆様に支持・利用していただけるゲームコンテンツ、比較サイト・情報サイトやECサイトなどの企画・開発・運営を行っております。具体的には、「人と人とのつながりの実現」をテーマに、世界中の人々に娯楽を提供するスマートデバイス向けゲームやツールアプリケーションの企画・開発及び運営を行う「エンターテインメント事業」、人生のイベントや日常生活に密着し、有益な情報を提供する比較サイト・情報サイトなど、様々なウェブサービスの企画・開発及び運営を行う「ライフスタイルサポート事業」、そして自社在庫を持ち、完全組立自転車をお届けする利便性を実現する自転車専門通販サイトの企画・開発及び運営を行う「EC事業」の3つの事業軸でビジネスを展開しております。

平成30年7月期第3四半期連結累計期間は前年同四半期比で増収増益となりました。

ライフスタイルサポート事業及びEC事業の繁忙期需要が功を奏し、売上高が増加しました。利益の増加につきましては、主にライフスタイルサポート事業の寄与によるものであります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は28,338,846千円（前年同四半期比12.5%増）、営業利益は3,809,225千円（前年同四半期比37.5%増）、経常利益は3,852,563千円（前年同四半期比37.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,650,824千円（前年同四半期比44.2%増）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は次のとおりであります。

#### <エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、自社で開発したオリジナルスマートデバイス向けゲームアプリケーション（以下「ゲームアプリ」）をApple Inc.が運営するApp Store及びGoogle Inc.が運営するGoogle Play等、アプリケーション（以下「アプリ」）を配信する専用のプラットフォームを通じて、世界中の人々に提供しております。ゲームアプリ自体は基本無料で提供し、ユーザーがゲームをより効率よく進めるためのアイテムを購入することで、そのアプリ内アイテム購入代金が主な収益となります。

当第3四半期連結会計期間においては、新規タイトルのリリースに向けて注力してまいりました。既存タイトルにつきましては、全体として減収傾向にあり、売上が前年同四半期比で減少しました。一方、セグメント利益につきましては、売上トレンドを見据えながら広告費を抑制し、効率的な運用を実施したため、前年同四半期比で増益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は12,511,815千円（前年同四半期比11.7%減）、セグメント利益は2,949,368千円（前年同四半期比15.7%増）となりました。

#### <ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、引越し関連、自動車関連、ブライダル関連、金融メディア等様々な事業領域において個人の利用者に向けてサービスを展開する事業者と提携し、「三方よし」のサービス理念のもと、人生のイベントや日常生活に密着した比較サイト・情報サイト等様々な便利なウェブサービスを展開しております。個人の利用者は基本無料で利用でき、パートナー企業に見込客を紹介することに対する紹介手数料及び成約報酬が主な収益であります。

サブセグメントとして、引越し関連事業、自動車関連事業、ブライダル関連事業、金融メディア事業、その他があります（注）。

引越し・自動車関連事業は引き続き日々のサイトの改善、プロモーション活動などにより順調に利用者を増やし、継続して業界トップシェアを維持しております。ブライダル関連事業は、全国6エリアに12店舗のハナユメウエディングデスクを展開しており、継続して「ハナユメ定額ウエディング」、「ハナユメフォト」等のブライダル周辺サービスを拡充しながら、サービスの品質向上に注力し、順調に利用組数を増やしております。金融メディア事業はキャッシング・カードローン総合比較サイト「ナビナビキャッシング」に加え、クレジットカード比較・情報サイト「ナビナビクレジットカード」が寄与し、継続して安定的に成長しております。さらに、住宅ローン比較・情報サイト「ナビナビ住宅ローン」及びFX比較・情報サイト「ナビナビFX」も順次立ち上げ、引き続き利用者数を伸ばしております。

各サブセグメント事業が総じて好調に推移し、中でも引越し関連事業が引越し業界の人手不足による引越し料金の高騰並びに3月の繁忙期需要が功を奏し、売上高が大幅に増加いたしました。セグメント利益につきましては、売上成長による利益寄与に加え、主にブライダル関連事業における利益寄与がけん引し、前年同四半期比で増収増益となりました。ブライダル関連事業は、平成29年7月期にはサービス名称変更後、サービス認知度向上のためのTVCM等、広告投資が集中したことに対し、当第3四半期連結累計期間においては、事業成長と効率的な広告投資により、前年同四半期比で増収増益となりました。

(注)平成29年12月に子会社化したIncrements株式会社につきましては、当第3四半期連結会計期間よりライフスタイルサポート事業に区分しております。サブセグメントにおける「その他」には、Increments株式会社が運用するプログラマ向けの技術情報共有サービス「Qiita（キータ）」及び手軽に書けるチーム内情報共有ツール「Qiita:Team（キータチーム）」を含め、女性向け生理日予想・体調管理アプリ「ラルーン」及びその他新規サービスが含まれます。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は13,848,298千円（前年同四半期比44.3%増）、セグメント利益は2,314,313千円（前年同四半期比63.8%増）となりました。

#### <EC事業>

EC事業では、東海、関東、関西3カ所に物流倉庫を構え、国内外から仕入れた200種類以上の完成品自転車自社で在庫を持ち、専属のプロ整備士により整備された完全組立自転車をオンラインで販売し、自宅までお届けする独自性の高い自転車専門通販サイトを展開しております。

主な収益は自転車の販売代金であります。

自転車専門通販サイト「cyma-サイマー」は平成25年12月にサービスを立ち上げて以来、フルフィルメント（注）強化のため、段階的に投資を重ねてまいりました。当第3四半期連結累計期間におきましては、3月の繁忙期需要が高まり、前年同四半期比で売上高が増加いたしました。引き続き「自転車を買うならサイマー」というブランディングを目指し、プロモーション強化を行いつつ、継続して販売台数を伸ばしております。

(注)フルフィルメントとは、ネット通販における受注管理、在庫管理、ピッキング、商品仕分け・梱包、発送、代金請求・決済処理等、通販ビジネスで最も重要なコアプロセス全般を指します。また、苦情処理・問い合わせ対応、返品・交換対応等のカスタマーサポートや顧客データ管理等の周辺業務も含まれます。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,978,732千円（前年同四半期比39.6%増）、セグメント損失は190,610千円（前年同四半期は146,124千円の損失）となりました。

#### (2) 財政状態に関する説明

##### ① 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は15,853,234千円となり、前連結会計年度に比べ2,712,401千円増加いたしました。これは主に、売上高の増加に伴う受取手形及び売掛金の増加・たな卸資産の増加1,309,288千円並びにのれんの増加1,248,264千円によるものであります。

##### ② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は4,855,349千円となり、前連結会計年度に比べ828,590千円減少いたしました。これは主に、短期借入金の減少474,000千円及び未払法人税等の減少655,256千円によるものであります。

##### ③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は10,997,884千円となり、前連結会計年度に比べ3,540,991千円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加2,234,559千円及び自己株式の変動695,801千円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年7月期は中長期的な成長に向け、引き続き人材獲得・人材育成及び環境整備・組織体制の構築に注力しております。その一環として、平成30年2月に福岡オフィスを開設し、人材の獲得に力を入れております。

当第4四半期会計期間につきましては、エンターテインメント事業において、平成30年5月21日に新規ゲームアプリ、一騎当千！爽快バトルRPG『三国BASSA!!』をリリースし、平成30年5月25日より課金開始いたしました。期初計画からは遅れてのスタートとなりましたが、プロモーションを実施しながら運営に注力しております。また、『三国BASSA!!』の他にも平成31年7月期以降のリリースに向けて新規タイトルの開発にも積極的に取り組んでおります。

通期連結業績につきましては、『三国BASSA!!』を中心に様々な変動要因を現時点で検討の結果、本資料発表日現在においては平成29年9月8日に発表の通期連結業績予想を据え置くことといたします。

上記の将来に対する記述、以下の業績予想数値は本資料発表日現在において当社グループが入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

## 平成30年7月期通期業績見通し（平成29年8月1日～平成30年7月31日）

売上高	40,000百万円（前連結会計年度比 15.6%増）
営業利益	4,700百万円（前連結会計年度比 15.3%増）
経常利益	4,700百万円（前連結会計年度比 14.1%増）
親会社株主に帰属する当期純利益	3,100百万円（前連結会計年度比 20.2%増）

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,004,078	4,722,835
受取手形及び売掛金	3,774,680	4,620,731
たな卸資産	366,380	829,617
その他	673,792	983,922
貸倒引当金	△9,128	△12,609
流動資産合計	9,809,802	11,144,497
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,284,400	1,256,453
その他(純額)	381,729	362,958
有形固定資産合計	1,666,130	1,619,412
無形固定資産		
のれん	—	1,248,264
その他	507,696	692,691
無形固定資産合計	507,696	1,940,955
投資その他の資産		
投資有価証券	378,235	391,574
敷金及び保証金	584,087	657,639
その他	203,887	108,345
貸倒引当金	△9,006	△9,190
投資その他の資産合計	1,157,203	1,148,369
固定資産合計	3,331,030	4,708,737
資産合計	13,140,833	15,853,234
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	405,371	471,341
短期借入金	632,000	158,000
1年内返済予定の長期借入金	—	36,140
未払金	2,487,271	2,611,129
未払法人税等	1,037,934	382,677
販売促進引当金	4,646	12,135
株式給付引当金	41,459	22,297
役員株式給付引当金	8,204	16,808
その他	586,010	599,915
流動負債合計	5,202,899	4,310,446
固定負債		
長期借入金	—	61,080
資産除去債務	481,040	483,823
固定負債合計	481,040	544,903
負債合計	5,683,939	4,855,349
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	535,996	835,568
資本剰余金	509,796	829,356
利益剰余金	7,493,342	9,727,902
自己株式	△1,177,659	△481,858
株主資本合計	7,361,477	10,910,969
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△583	937
その他の包括利益累計額合計	△583	937
新株予約権	96,000	85,978
純資産合計	7,456,893	10,997,884
負債純資産合計	13,140,833	15,853,234

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)
売上高	25,190,382	28,338,846
売上原価	3,998,568	5,085,140
売上総利益	21,191,813	23,253,706
販売費及び一般管理費	18,420,897	19,444,481
営業利益	2,770,915	3,809,225
営業外収益		
受取利息	427	125
投資事業組合運用益	—	40,159
為替差益	35,686	—
その他	14,219	16,400
営業外収益合計	50,333	56,685
営業外費用		
支払利息	2,446	1,406
投資事業組合運用損	5,096	—
為替差損	—	9,473
固定資産除却損	3,722	—
その他	471	2,466
営業外費用合計	11,736	13,346
経常利益	2,809,512	3,852,563
特別利益		
新株予約権戻入益	—	2,400
特別利益合計	—	2,400
税金等調整前四半期純利益	2,809,512	3,854,963
法人税等	971,055	1,204,138
四半期純利益	1,838,456	2,650,824
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,838,456	2,650,824



## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)
四半期純利益	1,838,456	2,650,824
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,510	1,521
その他の包括利益合計	△1,510	1,521
四半期包括利益	1,836,946	2,652,346
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,836,946	2,652,346

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年8月25日付発行の第6回新株予約権(第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権)の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ284,793千円増加するとともに、自己株式が609,837千円減少しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が835,568千円、資本剰余金が829,356千円、自己株式が△481,858千円となっております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第2四半期連結会計期間において、Increments株式会社の全株式を取得したため、連結の範囲に含めておりません。なお、Increments株式会社は当社の特定子会社に該当しております。

## （セグメント情報）

前第3四半期連結累計期間（自平成28年8月1日至平成29年4月30日）

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテインメント 事業	ライフスタイルサポ ート事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,177,117	9,596,128	1,417,135	25,190,382	—	25,190,382
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,177,117	9,596,128	1,417,135	25,190,382	—	25,190,382
セグメント利益又は損 失(△)	2,549,851	1,412,724	△146,124	3,816,451	△1,045,535	2,770,915

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,045,535千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成29年8月1日至平成30年4月30日）

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテインメント 事業	ライフスタイルサポ ート事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,511,815	13,848,298	1,978,732	28,338,846	—	28,338,846
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,511,815	13,848,298	1,978,732	28,338,846	—	28,338,846
セグメント利益又は損 失(△)	2,949,368	2,314,313	△190,610	5,073,070	△1,263,845	3,809,225

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,263,845千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。